

# 同じ悩みを抱えて共に生きる 地域に根ざしたお寺に



ふじいきょうしょう 1979年生まれ、東京都出身。2002年、同志社大学文学部文化史学科卒業。在学中から京都本山頂妙寺や大本山法華経寺などで修行。2006年より身延別院副住職として勤める。一般社団法人活人塾や身延別院青年会を設立し、地域に根ざした寺院を目指して活動する。2016年5月、全国日蓮宗青年会第32代会長に就任。

地域での活動の一方、日蓮宗青年会の活動にも積極的に関わってきました。青年会では、東日本大震災を風化させてはいけないと、思いから、支援活動を続けていました。現地で傾聴活動をしたり、フェイスヨガやアロマキャンドル作りのイベントを行ったり。震災で親を亡くした子どもたちを招待する「集まれ東北のこどもたち」という企画は5回を数えました。子どもたちには、「生きるとはどういうことか」を教えていきたいと思っています。

## 日本の未来を担つ 子どもたちの成長を支えた

私は今年5月、全国日蓮宗青年会第32代会長に就任しました。この青年会には日蓮宗の青年僧約1000人が加盟しています。ここで私は青年僧の意識改革を行いたいと考えています。誰のためのお寺なのか？ 社会の中で必要とされるお坊さんになるためには？ お坊さんは悩んでいる人のために自分を犠牲にできなければいけません。自分のことよりも地域やそこに暮らす人々を先に考えて行動すれば、社会が変わります。社会を変えるには、我々お坊さんが変わらなければいけないのです。お寺は地域に根ざしているものであり、人々がいつでも足を運べる場所。行けば悩みを聞いてくれるお坊さんがいて、「あのお寺に行けばなんとかなるんじやないか」と思つてもらえる場所である。べきだと考えます。人々と同じ悩みを抱え、共に生きるお寺……私はそんなお寺を目指しています。

Heart Beauty Salon

# サトリのココロ

多くの人が孤立感、生きにくさを感じる今、  
仏教に興味を持つ人が増えています。  
僧侶に聞く、弱い自分と向き合う方法——

日蓮宗身延別院副住職  
全国日蓮宗青年会会长  
**藤井教祥さん**

第71回

2006年に東京に戻り、父が住職を務める身延別院で副住職となりましたが、私には「お坊さんとの役割を社会の中で再認識していかなければ」という思いがありました。そして「地域に根ざしたお寺にしたい」と、さまざまな活動を始めました。

まずは子育て支援です。お寺で寺子屋を開いたり、ひとり親世帯

のサポートをしたり。檀家さんにランドセル会社の社長さんがいらつしやるので、ランドセルを寄付していただき地域の新1年生がいる家庭に無料配布を行っています。

また、「いただきます」「ごそうさま」の意味を子どもたちに教える食育イベントも行っています。食育インストラクターの吉澤晶子さん主宰の「#FOOZI！」が開いた「おにぎ隣人祭り」にコラボ参加して、食べられることの幸せ、命の大切さを伝えたりもしました。

よりよい社会に変えるために  
まずはお坊さんの意識改革を

これから日本を支えていくのは子どもたち。その子どもたちの成長を見守り、支えていくのが私たちの役目だと思っています。



上／食育イベントではおにぎりを握りながら「いただきます」「ごそうさま」の大切さを教えている。  
下／境内には江戸伝馬町の牢獄で獄死した靈を慰める供養塔もある。